

2024/05/12

説教題： 義認：この世における敬虔な生き方へと導く

お早うございます、OICの皆さん

ローマ人への手紙は、使徒パウロが、多くのユダヤ人が参加するローマの諸教会に宛てて書いた手紙です。簡単な復習をしたいと思います。

JUSTIFICATION (義認) とは、イエスの十字架上の死に基づいて、永遠の赦しを買うために、私たちには、もはや罪がなく義とされている、という神の宣言です。私たちの義は神の計画に従っています： 義の状態は、聖書に啓示されているように、「時が始まる前から」、「今も」、そして「未来においても」です。ここ数カ月、ローマ書は、時が始まる前から、私たちクリスチャンは「選ばれた者」であることを教えています。ローマ書はまた、宇宙の主権王である神が、すべての人の救いをみことばに委ね、選ばれた者の集まりである教会の手に委ねられたと宣言しています。今日、私たちは、信仰によって義とされたクリスチャンが、反キリストのローマ政府の「罪深い」世界において、「敬虔な」生活を送るために、そのローマの恐れから解放されることを、パウロがどのように描写しているのかを、さらに詳しく見ることにします。

2週間前の4月28日(日)、私は『義認は献身的奉仕につながる』というメッセージの中で、次のように説教しました：「私たちがホーム・チャーチで奉仕をする時、神への畏敬の念を抱いて奉仕するなら、クリスチャンの仲間とのつながりも深まります。使徒パウロは、もし私たちがイエスに献身するならば、私たち自身を生けるいけにえとして神に捧げることになると明言しています。もし私たちがこれを熱心に行うなら、地方教会のクリスチャンたちとの関係をより緊密にするための勇気を持つこともできるでしょう。そうすれば、「私たちはコンピューター・ゲームをするように、教会で遊んでいるのではない」と言えるようになるのです」。

私たちは、地方教会での人間関係に必要な信仰を大切に考えています。この信仰を持つために、勝利の祈りというものがあります。世に打ち勝ち、肉に打ち勝ち、悪魔に打ち勝つ信仰を持つための勝利の祈りは、私たちの地方教会における人間関係の勝利をもたらします。

先週5月5日のメッセージのタイトルは、「祈りこそ勝利」でした。聖書箇所はヨハネの手紙第一とマタイからでした。それらは、前週の聖書テキスト(ローマ 12章10-11節)とよく合っています。「10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。」

5月5日のメッセージを引用します：「兄弟愛は自然なものではありませんが、神は、ローマ人への手紙12章にあるように、自らを生けるいけにえとして捧げたクリスチャン

のうちに、兄弟愛を実現させてくださるのです。」5月5日のメッセージでは、使徒ヨハネがイエスから教えられた「愛」について、その意味を明らかにしようと試みました。私はまた、イエスが教会において「罪を犯し、打ちひしがれている」クリスチャンを権威をもって、勇気付けるように勧めていることにも気づきました。これは祈りによって与えられる権威です。これはタフ・ラブ（厳しい愛）と呼ばれるに違いないのですが、イエスはご自分の体である教会で、クリスチャンが他のクリスチャンをいじめさせるつもりはなかったのです。ニュー・アメリカン・バイブル改訂版（NASBRE）の注釈を引用しましょう：「教会の規律-「教会の裁きは天において、すなわち神によって批准されます。」（マタイ 18章 18-20節）：「18 アーメン。まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです。19 まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつなげて祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」イエスの言われる「厳しい愛」とは、天が信仰深い教会の規律を行使することを意味します。

教訓 その1

今日のローマ人への手紙の聖書箇所（ローマ 12章）の釈義の前に、私はこのように始めましょう。妻のドロシーと私は、羊飼いの長であるイエスとともに、羊飼いの長でない私と助け手である彼女が、どのようにしてOICの人々を互いに緊密な関係へと導くことができるかを祈ってきました。最後の2つの説教は、「義認： 献身的な奉仕への導き」と「信仰-祈りこそ勝利」です。これらの説教は「互いに愛し合うこと」に重点が置かれていました。私たちの願いは、OICに人々がお互いをもっとよく知り、一緒に祈ることを奨励することです。そうすることで、イエスが教えられたように、互いに愛し合うことが生まれるでしょう。

（ローマ 12章 14-15節）：「14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」

パウロはいくつかの「どのように生きるべきか」という指示を、ほとんどがたった一文か一行で書き始めています。これは、聖書の旧約聖書にあるソロモンの箴言集と形式や表現が似ています。14節で、神はクリスチャンに、彼らを迫害する人々に無条件の愛を与えるよう求めておられます。罪人は、自分を傷つける人々を呪い、悪意を抱きます。しかし、アガペー（ギリシャ語）、すなわち無条件の愛を与えることです。まず、神が私たちをイエスの信仰に引き寄せたときに、行使され、与えられたものです。イエスが十字架に磔にされる時、この美しい魂を救う無条件の愛を宣言されました。

（ルカ 23章 33-34節）：「33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとは右に、ひとは左に。34 そのとき、

イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。」

(ローマ 12章 15節)：「15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」

このように、クリスチャンに限らず、同胞である人間に対して共感と憐れみを持ちなさいという教えがあります。彼らの喜びや悲しみを分かち合うことは、すべての人を愛する神に、喜ばれることです。

(ローマ 12章 16節)：「16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っ

てはいけません。」そして、より良い意味で (ローマ 12章 16節 a/AMPC)：「互いに調和して生きよ、高慢になるな(俗物的、高邁、排他的)」クリスチャンが「高慢」であることや「傲慢」になりたくない

ので、キリストにある兄弟姉妹を助けるために、イエスの霊から啓示の言葉を差し控えることがないように、私はこの訳を入れました。

先週の説教(エペソ 4章 15節)を思い出してください。：「15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなので

す。」

聖霊は、私たちが真の愛からではなく、「俗物的で、高邁で、排他的」な動機を持っているときに、私たちの内側でささやく、という仕事を忠実にされています。神の御霊は、すべてのクリスチャンのために、内側でささやくと言う賜物をお使いになります。私たちは皆、聖書の指示に従うことができるように聖霊をいただいていることを忘れないでください。聖職に召されていないクリスチャンから、たとえ教会の建物の外の駐車場であっても、簡単なおしゃべりや話の中で、私は、イエスから深く必要な教えを受けたことがあります。なぜ?と聞かれるかもしれません。私はイエスからの教えに飢えていたからです! そして聖書は私たちに言います。

(1 コリント 1章 30節)：「30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。」

(ローマ 12章 16節 b/AMPC)：「しかし、[人や物事]に容易に順応し、謙虚な仕事に身を捧げなさい。決して自分を過大評価したり、うぬぼれたりしてはならない。」

すべてのクリスチャンは、ある程度宣教師です。宣教師とは、異国の文化に住む「人々」と、その文化の「物事」との両方を大きく調整するために、神から与えられている人です。そしてこの聖書の箇所は、すべてのクリスチャンが自分の文化や社会で「宣教師」としての態度を持つためのものです。神がどのような召命を与えようとも、決して、自分の分を越えてはいけません。

イエスは言われます。(マルコ 10章 42-45節)：「42 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおり、異邦人の支配者と認められた者たちは彼らを支配し、また、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。43 しかし、あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。44 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、みな

なさい。45 人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」
(ローマ 12 章 17 節)：「17 だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。」

明らかな奇跡がなくても、クリスチャンの人生は非常に超自然的であることがここでわかります。私たちの罪深い人間性は、悪には悪で報いようとしません。十字架上イエスと、イエスを十字架につけた人々を赦すというイエスの願いを振り返れば、私たちはこの教えに従うようにと、謙遜になるはずですが。私たちはここで、ノンクリスチャンであっても正しいと考えている事を尊重しなさいと言われていました。地球上のどの社会にも、聖書に反しない善と悪の考え方がたくさんあります。私たちは、反キリスト教的な歪曲や基準を除いて、これらの正しいことを尊重しなければなりません。

(ローマ 12 章 18 節)：「18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」これは、クリスチャン同士の関係にも、クリスチャンでない人との関係にも当てはまります。しかし、両者が真理をはっきりと認識したり、見たりしていない状況では、同意が得られないこともあることに注意してください。これは信者があなたに対して罪を犯しているのではなく、あなたに反対しているのです。「自分に関する限り」という言葉は、平和のために努力したところで、相手が常に正しいことをしてくれるとは限らないことを神は知っておられることを示しています。そのような場合には、むしろ距離を置いた関係を受け入れることでしか平和は保てないかもしれない。聖霊は、キリストの体におけるこのようなあまり好ましくない関係においても、ここでも愛に満ちた者となるように導いてくださいます。これがクリスチャンとの関係であれば、私は次のような表現が役に立つと思います：「私たちは、それを天国でもっとよく理解できるでしょう！」

(ローマ 12 章 19 節)：「19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

パウロは旧約聖書の(申命記 32 章 35-36 節)を引用します。：「35 復讐と報いとは、わたしのもの、それは、彼らの足がよろめくときのため。彼らのわざわいの日は近く、来るべきことが、すみやかに来るからだ。」36 主は御民をかばい、主のしもべらをあわれむ。彼らの力が去って行き、奴隷も、自由の者も、いなくなるのを見られるときに。」

教訓 その2

OIC の親愛なる聖徒の皆さん、私たちが敵を愛することと、私たちではなく、神が敵を裁き、罰することとを混同しないことが重要です。(マタイ 5 章 43-49 節)「あなたがたは、『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎みなさい』と言われたのを聞いたことがあるだろう。あなたがたに言うが、あなたがたの敵を愛し、あなたがたを迫害する者のために祈りなさい、そうすれば、あなたがたは天におられるあなたがたの父の子となるのである。」しかし、ジョン・ウェスレーは 18 世紀のイギリスでの宣教において、10 度「神の報復」を記録しています。これらは、主イエスによる敵に対する裁きでした。聖霊はジ

ジョンとチャールズ・ウェスレーを通して、イエスの御名の栄光のために、多くの救いと多くの力の奇跡のために働いておられました！ これらの詳細は、合同メソジスト教会文書館からのもので、本（The Supernatural Occurrences of John Wesley, Jennings）に印刷されています。これらの報復には次のようなものがあります： ジョン・ウェスレーに対する説教の最中に激しい病気に襲われた牧師、首吊り自殺、失語、ウェスレーの王国活動にこれ以上の害を加える前に打ち殺されました。

敵に対する私たちの行動は、イエスの裁きの仕事をイエスの手に委ねることです。

（ローマ 12章 20-21節）：「20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」

このことは、19節の最後の意味や釈義を裏付けています。このように、私たちは敵を愛するだけでなく、敵に対する「愛の行為」を見つけるように命じられています！ しかし牧師よ、炭火を燃やすことは、私たちが「罰」を与えているように思えます。違います！ 燃える炭は、彼らをイエスのもとに近づけるために、あるいは地獄の永遠から救うために、悔い改めをもたらす神の憐れみなのです！

さて、パウロのローマへの手紙は、クリスチャンがこの世で生活する政府との関係に目を向け、「政府に従いなさい」という指示を与えています。1世紀史の専門家でなくても、クリスチャンがしばしば迫害を受け、ローマのコロッセオで野獣の餌にされ、死に至ったことを知っています。ゲッセマネの園でイエスを逮捕しようとしたローマ政府を、イエスは決して制圧しようとしなかったのです。

（マタイ 26章 51-54節）：「51 すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとでも思うのですか。54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」

それでローマの諸教会は権威に服従するよう指示されていますが、パウロが強調しているのは「民法」であって、「皇帝やカイザルを崇拝するような異教的な宗教法」ではありません。私が知っている誠実なアメリカ人クリスチャンは、兵士として大きな苦しみを味わったベトナム戦争を引き起こした非合法で非アメリカ的な活動に憤慨し、納税を拒否しました。納税は「民法」であり、クリスチャンの教会での活動を脅かすものではありません。

（ローマ 13章 1-2節）：「1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めに従っているのです。従った人は自分の身にさばきを招きます。」

パウロはここで、教会に対する迫害のために、すべてのローマ法に反抗することを予想しています。また、ローマの信者は当時の異教社会にいたので、そのような態度では簡単

に犯罪行為に戻るかもしれないことも覚えておいてください。パウロは今、本質的に、そのような行動をとるクリスチャンを神は守らないと言っています！彼らは自ら非難を受けることとなります。これは神による地獄への宣告ではありません。しかし、民法を破ったことによる牢獄か、場合によっては死です。これは、殉教者の死のように神を賛美することにはなりません。

(ローマ 13 章 3-4 節) : 「3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なうときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者からほめられます。4 それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。」

(ローマ 13 章 5-7 節) : 「5 ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。6 同じ理由で、あなたがたは、みつぎを納めるのです。彼らは、いつもその務めに励んでいる神のしもべなのです。7 あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい。みつぎを納めなければならない人にはみつぎを納め、税を納めなければならない人には税を納め、恐れなければならない人を恐れ、敬わなければならない人を敬いなさい。」

パウロは、どんなに反キリスト的な政府であっても、その社会を熱心に守ろうとする働き手がいることを知っていました。これは、イエスの御国が到来するにつれて、すべての国が過ぎ去ることを知っているにもかかわらず、国を守るために戦う兵士たちに名誉を与えることに似ています。

(ローマ 13 章 5 節)によれば、クリスチャンの良心は、「良心のため」というように、政府と彼の関係における要因です。新約聖書のいくつかの箇所に出てくる聖書ギリシャ語の良心 -syneidēsis- とは、次のような意味です：1) 現在の考え、2) 持続する観念、3) 現実の印象、4) 内面的な道徳的、精神的な枠組み。というのは、私は、これらの明確な定義に関連する感情は、通常、人の心の奥底にあると信じていますから、内面的な道徳的・精神的フレームとして、2) 根強い観念と 4) 良心の意味を強調したいと思います。人を悩ませる「しつこい観念」がなければ、良心はほとんどの人にあまり効果を発揮しません。また、以前のメッセージで説いたように、クリスチャンではなく、非常に宗教的な異教社会であったアメリカン・インディアンは、感情と良心の持続的な感情について素晴らしい教えを持っていました。良心の悩みは、丸い穴の中で四角い棒が回っているようなものです！それで、クリスチャンが自分の良心をはっきりさせておくことは、イエスとの関係にとどまるために不可欠です。

(ローマ 13 章 5 節) が提起した、政府に服従することに関する聖書の教えや良心の概念を、私は簡単に読み飛ばすことはできません。というわけで、私は次の段階に進まなければなりません。

(ローマ 14 章 22-23 節) : 「 22 あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。 23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。」

神は、聖書を適用するために私たちを放っておかれたのではありません。神は私たちに御霊を与えてくださったのです。私の良心が、以前の罪の生活によって変形していること、あるいはねじれていることを神が示されたときがありました。もし今、神が私の良心を癒してくださっていることを教えてくださらないのであれば、私は**自分の良心**に従います。私たちが祈るなら、聖霊は私たち一人ひとりの良心を示してくださいます！良心とは、神があなたを罪から守るための手段です。これは自己非難とは異なります。

しかし、聖書によれば明確に「罪」とされていないからといって、その事を頑なに続けようとすることがあります。もしクリスチャンが自分の良心からの真のメッセージを無視するなら、2つの質問を自問しなければなりません。1) これは私の真の良心なのか、それとも悪魔が私を非難しているのか。2) もし本当にこれが自分の良心であるかどうかを自問することです：良心に反する行為を続けることは、私の永遠の命を危険にさらすほどの価値があるのだろうか？そして、いや、その前に、イエスにも尋ねなければなりません！神は忍耐強く、良心に関するあなたの祈りに何度も答えてくださいます。聖霊は、「あなたの本当の良心」を優しく明らかにしてくださいます。悪魔がキリストにあるあなたの自由を奪っていないことを明らかにしてくださいます。聖霊は完璧に仕事をするのです。あなたが問題の「行動」を行った後、神があなたの祈りに忍耐強く、典型的には一度以上答え始めた後、あなたが神の知恵、神の答えを拒み続けるなら、あなたの心は神に対して頑なになるでしょう！これは、あなたが「それなしでも生きていける」ことに関して、「自分の思い通りにしたい」という苦渋の壁なのです。聖霊があなたの良心についての真理を確信させた後も、あなたが自分の良心に反するこの行動を故意に続けることを主張するなら、それは「**反逆の罪**」となります。

(1 サムエル 15 章 23 節/AMP) : 「 23 まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主のことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」」このようなことを決め続けるクリスチャンは、自らをイエスではなく「主」と呼んでいるのです。

教訓 その2

クリスチャンの良心は、その人の内面にある個人的な「裁判官」です。もし良心が「クリア」に保たれていなければ、それは曇り、内なるイエスの御霊によるコミュニケーションを聞くことを妨げてしまいます。私たちは皆、夫々異なった判断をしていますが、神だけが理解できる事柄があります。聖書がその行為を罪と呼んでいないからと言って、「良心に反してやってもいい」ということにはなりません。神は、あなたの罪深い過去によってねじ曲げられた良心を癒してくださるでしょう。しかし、それはまだあなたの良心であって、他人の良心ではありません。イエスとの歩みが成熟し始めた

ら、聖霊があなたの本当の良心を明らかにしてくださるように祈るのは、あなたの責任です。聖霊はいつも優しく、神の助けを約束して答えてくださいます。

(ローマ 13章 8節) : 「8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。」

クレジットカードや銀行からの借入れが氾濫するこの世界で、私たちがどの「企業」にも借金がないということはまずありえません。お金で最も危険なのは、個人に対してお金を借りることです。これはどんな社会でも多くの人間関係を台無しにします。

(ローマ 1章 14-15節) でパウロが自分自身についてこう述べているのを見たようにです。 : 「14 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならぬ負債を負っています。15 ですから、私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。」

彼が受けた救いの賜物が、私たち皆と同じように、まったく報われないものであることを知っていました。主を愛するということは、イエスの呼びかけに応じるということであり、また隣人を愛するということは、地の果てまでイエスの福音を宣べ伝えるということでした。隣人を愛する者は律法を成就したのです。それが律法の本質です。イエスは、あるユダヤ人律法学者に次のように答えられたようにです。

(マタイ 22章 36-40節) : 「36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」 37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 38 これがたいせつな第一の戒めです。 39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。 40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

もし神が説教によって隣人を愛するようにあなたを召されなかったとしても、神は隣人を愛することによって律法を全うするように私たち全員を召されたのです。イエスが言われました(ルカ 6章 31-32節) : 「 31 自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。 32 自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、自分を愛する者を愛しています。」

さて、パウロは、隣人を愛することによって律法を全うすることを、次のように繰り返しています。(ローマ 13章 9節) : 「9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな。」という戒め、またほかにどんな戒めがあっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」ということばの中に要約されているからです。」

パウロはこの節を、イエスを試した律法学者に対するイエスの結びの言葉(マタイ 22章 39節)で締めくくっています。 : 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』

さて、パウロは(10節)で、「行動する愛」と「法律」の定義について、力強くもシンプルな神学を付け加えています。(ローマ 13章 10節) : 「10 愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。」

ローマ書のこれらの箇所は、ソロモンの箴言集に似た使徒パウロの新約聖書の教えです。違いは、私たちは主イエスとの永遠で終わることのない関係を知っているということです。ソロモンの箴言は地上での生活を対象としていましたが、パウロの箴言は天国へと

続く地上での生活を対象としています。これらの教えは挑戦的でありながら、クリスチャンとして生きる上で非常に実践的です。これらの教えや指示は、私が米国ミズーリ州スプリングフィールドにあるエヴァンジェル・カレッジで働いていたときに聞いた本のタイトルにぴったりだと思います。

「No, no, no の世界に生きる Yes、Yes！」

祈りましょう！

参照文献

AMP - Amplified Bible, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

AMPC - Amplified Bible Classic, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.

The Supernatural Occurrences Of John Wesley, Daniel R. Jennings, Copyright 2005, 2012 With permission in advance for preaching the Gospel of Jesus Christ.